

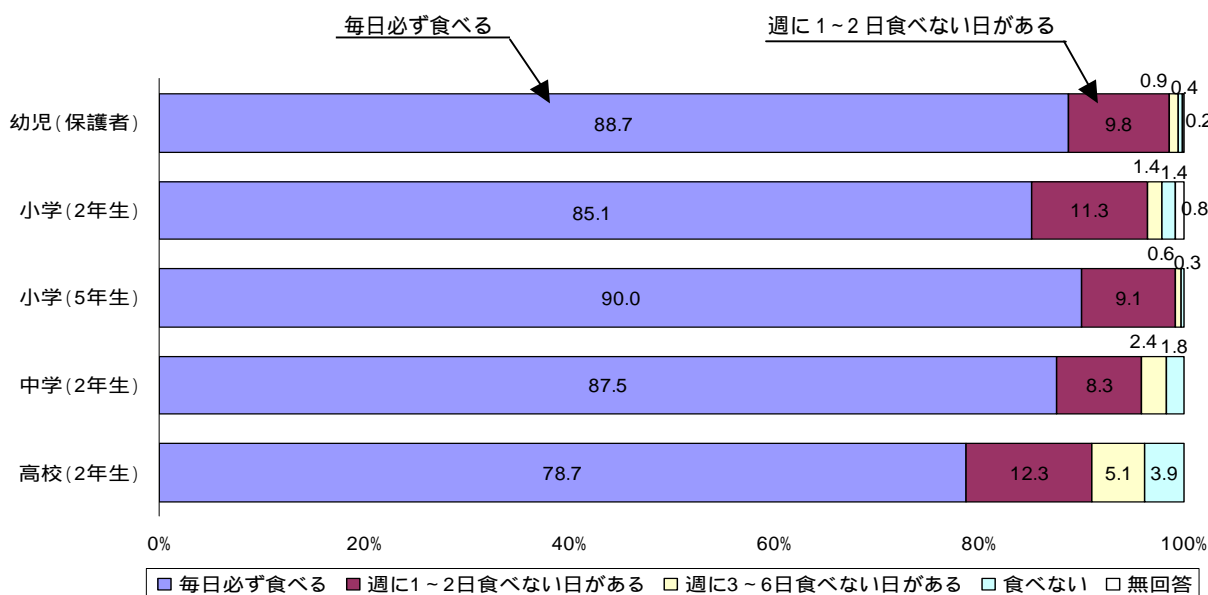
食育に関するアンケート調査結果の概要 (幼児～高校生)

1 朝食の摂取状況

朝食の摂取

朝食を必ず食べる割合は、幼児で 88.7%、小学 2 年生 85.1%、小学 5 年生 90.0%、中学 2 年生 87.5%と、摂取状況は良好でした。

高校 2 年生でも 78.7%で、比較的良好ですが、「食べない」3.9%、「週に 3～6 日食べない日がある」5.1%と、1 割近くは欠食が常習化しているとみられます。



～食べない理由(複数回答)～

朝食を食べない理由としては、幼児では、保護者から見て「子どもの食欲がないから」が 53.8%と半数以上となっています。

小学 2 年生以上では、「時間がないから」が食べない理由の第 1 位となっており、小学 2 年生 54.9%、小学 5 年生 52.9%、中学 2 年生 66.7%、高校 2 年生 67.6%と、年齢とともに比率が増加しています。次に食べない理由としては、「食欲がないから」が小学 2 年生で 45.1%、小学 5 年生以上では 40%弱となっています。また、「用意してもらえないから」が 5.9%～6.3%、「家族が食べない習慣だから」が中学 2 年生で 7.9%となっています。

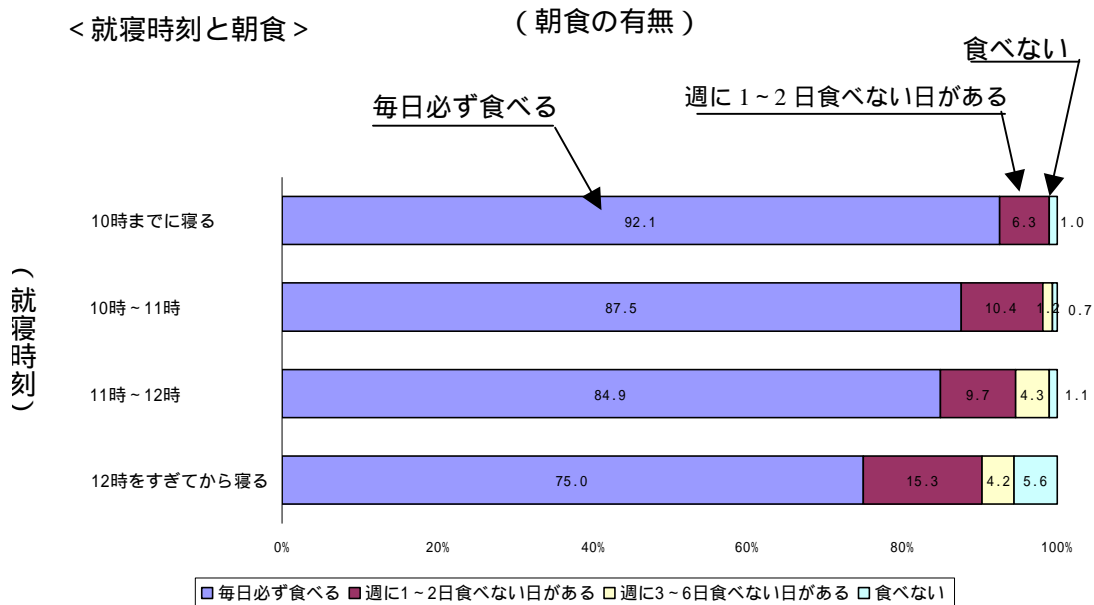
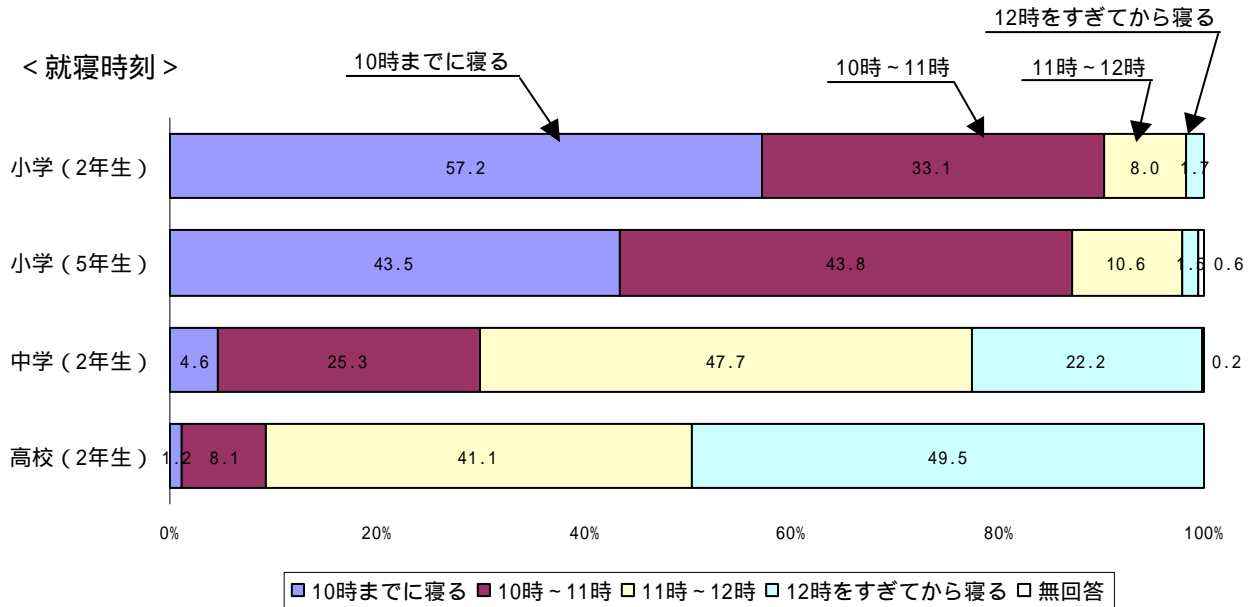
	時間がないから	食欲がないから	用意してもらえないから	太りたくないから	家族が食べない習慣	その他
小学(2年生)	54.9	45.1	5.9	3.9	-	3.9
小学(5年生)	52.9	38.2	5.9	2.9	-	5.9
中学(2年生)	66.7	39.7	6.3	1.6	7.9	11.1
高校(2年生)	67.6	36.6	5.6	2.8	1.4	14.1
幼児(保護者)	7.7	53.8	-	-	1.9	13.5

単位：%

～就寝時刻と朝食との関係～

子どもの就寝時刻については、11時までに寝る割合は、小学2年生90.3%、小学5年生87.3%と高く、中学2年生29.9%、高校2年生9.3%と、高学年になるほど就寝時刻は遅くなっています。高校生では、「12時を過ぎてから」が49.5%と最も比率が高くなっています。

就寝時刻と朝食欠食の関係は、寝る時間が遅くなればなるほど、朝食欠食の割合も高くなっており、一定の影響があるとみられます。



2 食事環境

食事の相手

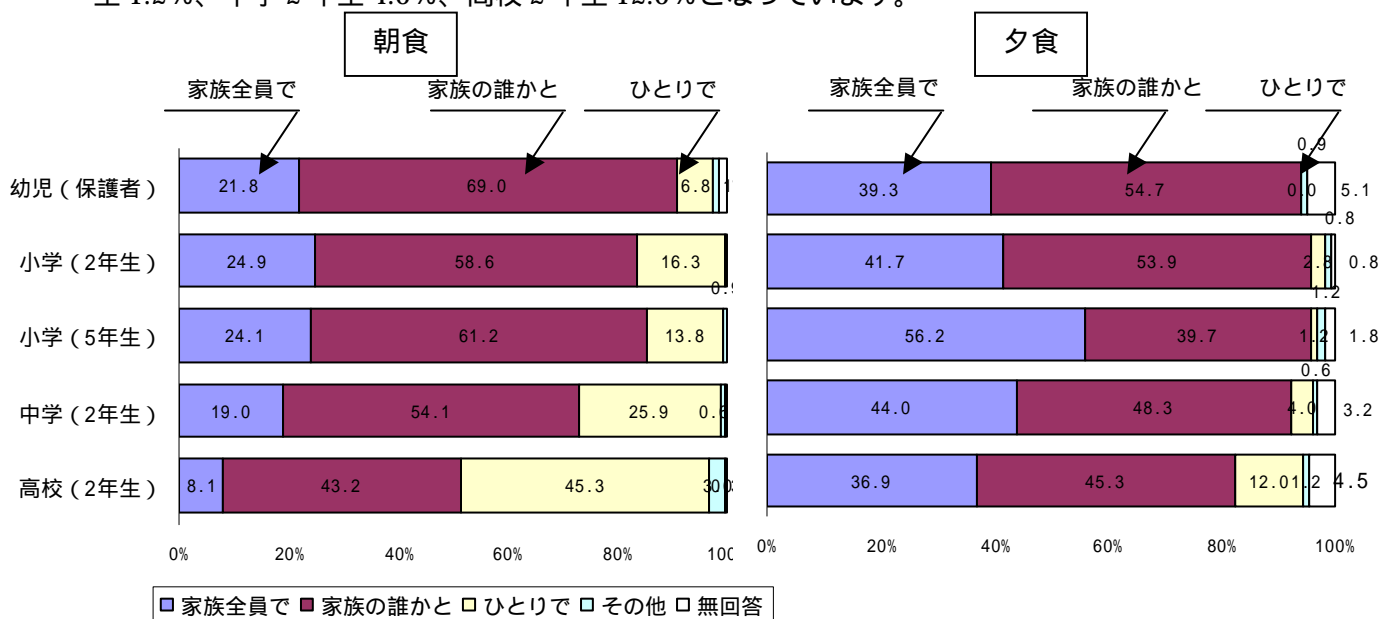
「家族全員で」食事をする割合は、幼児では朝食 21.8% (夕食 39.3%)、小学2年生 24.9% (夕食 41.7%)、小学5年生 24.1% (夕食 56.2%)、中学2年生 19.0% (44.0%)、高校2年生 8.1% (夕食 36.9%) となっています。

夕食では、「家族全員で」「家族の誰かと」を合わせ、家族での食事の割合が幼児 94.0%、小学2年生 95.6%、小学5年生 95.9%、中学2年生 92.3%、高校2年生 82.2% となっています。

孤食の状況

食事を1人でとる子どもの割合(孤食の比率)は、朝食で幼児 6.8%、小学2年生 16.3%、小学5年生 13.8%、中学2年生 25.9%、高校2年生 45.3%と年齢に従い増加しています。

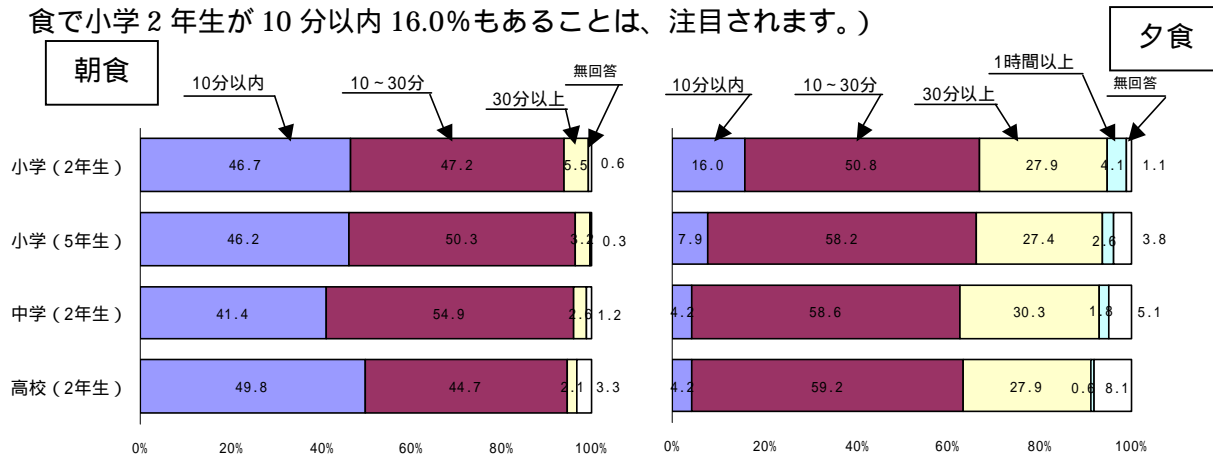
朝食に比べ夕食では孤食の比率が低くなり、幼児ではゼロ、小学2年生 2.8%、小学5年生 1.2%、中学2年生 4.0%、高校2年生 12.0% となっています。



食事の時間(小学生以上)

食事にかかる時間は、朝食では10分以内が45.5%、10分~30分未満が49.9%となっていますが、夕食では、10分以内が7.8%、10分~30分未満が56.8%、30分~1時間未満28.6%、1時間以上2.3%となっています。

朝食は短時間で夕食は時間をかけて食べる傾向が見られますが、夕食においても、30分未満の割合が64.6%と、全体として、余り時間をかけない傾向が見られます。(とくに、夕食で小学2年生が10分以内16.0%もあることは、注目されます。)



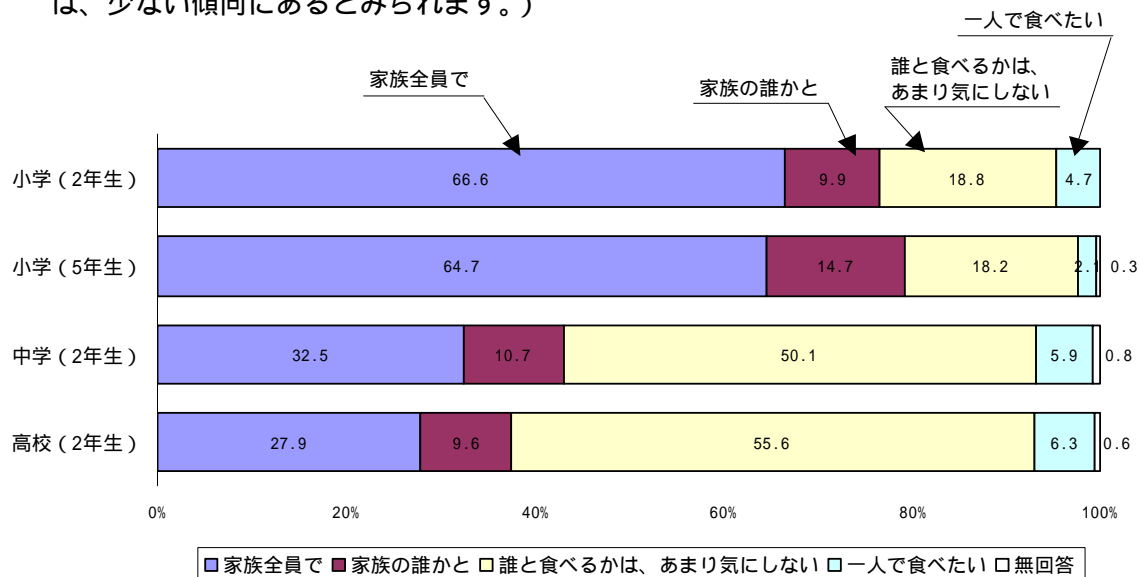
3 食事への期待

望む食事相手

「本当は、食事を誰と食べたい」との問いに対し、「家族全員で」と「家族の誰かと」を合わせ家族との食事を望んでいる割合は、小学2年生76.5%、小学5年生79.4%、中学2年生43.2%、高校2年生37.5%と、中学以上では、その割合が低くなっています。

とくに、中学以上では「誰と食べるかはあまり気にしない」割合が高く、中学2年生50.1%、高校2年生55.6%と家族との食事を望む割合よりも高くなっています。

一方で、「一人で食べたい」割合は、小学2年生4.7%、小学5年生2.1%、中学2年生5.9%、高校2年生6.3%となっています。(孤食を望む人はいますが、実際の孤食割合よりは、少ない傾向にあるとみられます。)

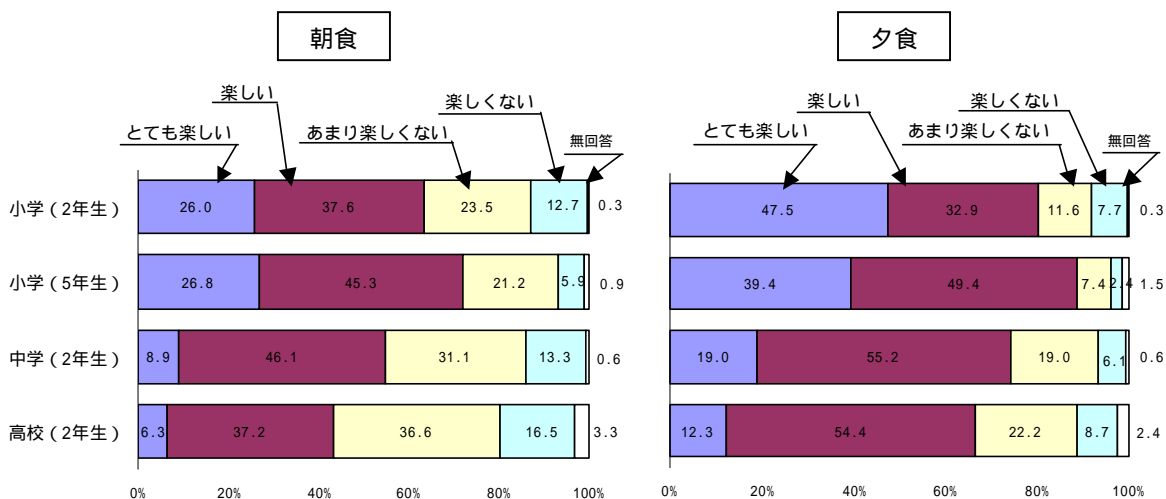


食事の楽しさ

幼児については、保護者に回答してもらっていますが、「楽しみしていると思う」74.1%となっています。

小学生以上は、本人に対し尋ねていますが、「とても楽しい」と「楽しい」を合わせて、朝食では、小学2年生63.6%、小学5年生72.1%、中学2年生55.0%、高校2年生43.5%と、年齢に従い楽しみの割合が減り、高校2年生においては、「あまり楽しくない」と「楽しくない」合わせて53.1%と、楽しくない割合が楽しいを上回っています。

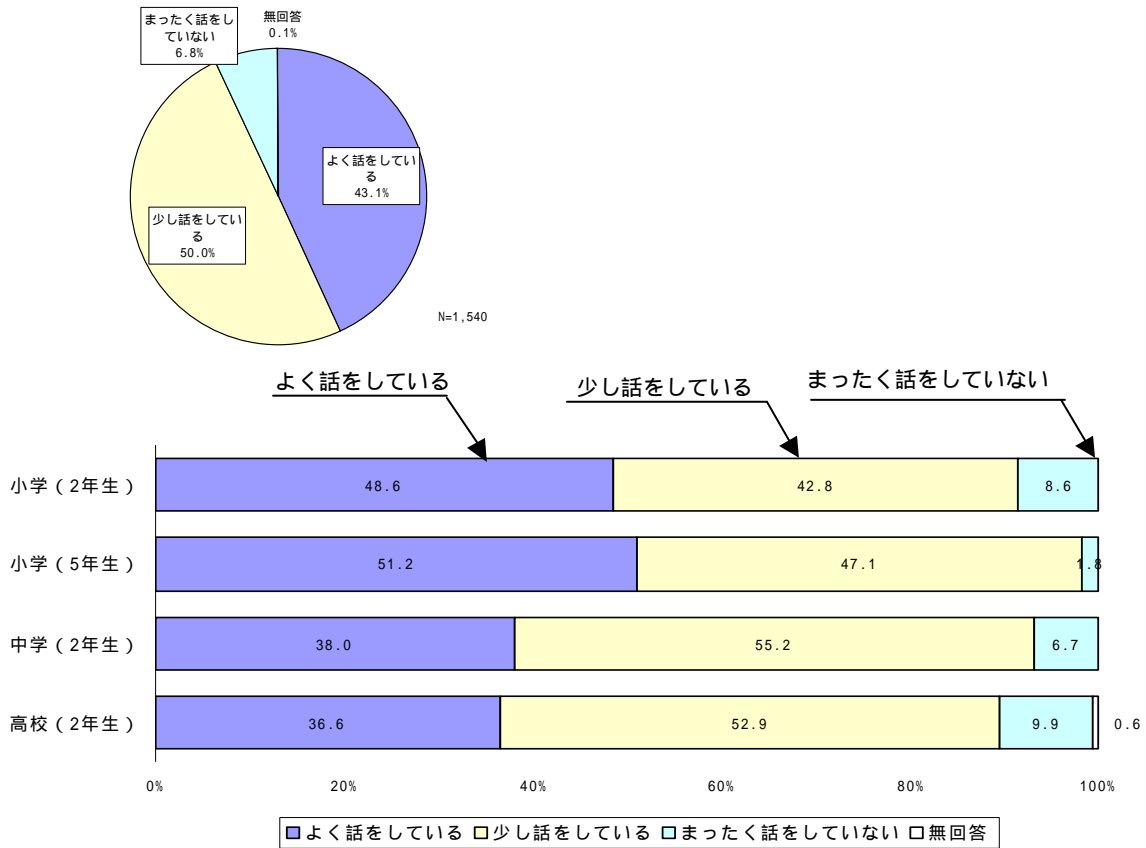
夕食では、「とても楽しい」と「楽しい」を合わせた割合が、小学2年生80.4%、小学5年生88.8%、中学2年生74.2%、高校2年生66.7%と朝食より明らかに高くなっています。一方、「あまり楽しくない」「楽しくない」とする割合から見ると、中学生2年生25.1%、高校2年生は30.9%となっています。



家族との会話

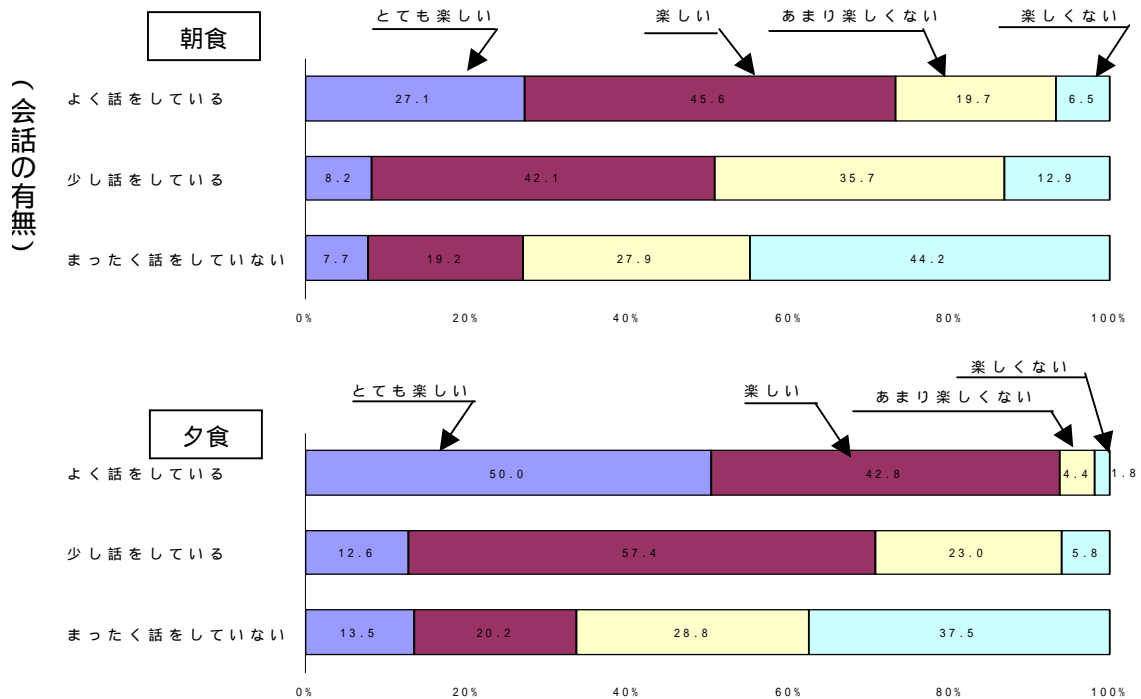
食事の時の会話については、「よく話をしている」43.1%、「少し話をしている」50.0%と、ほとんどの場合、会話が交わされていると見られます。一方、「まったく話をしていない」が小学2年生で8.6%、高校2年生で9.9%となっています。

また、会話の有無と食事の楽しさは、会話の頻度が多いほど、食事が楽しいという結果が出ています。



< 会話の有無と食事の楽しさ >

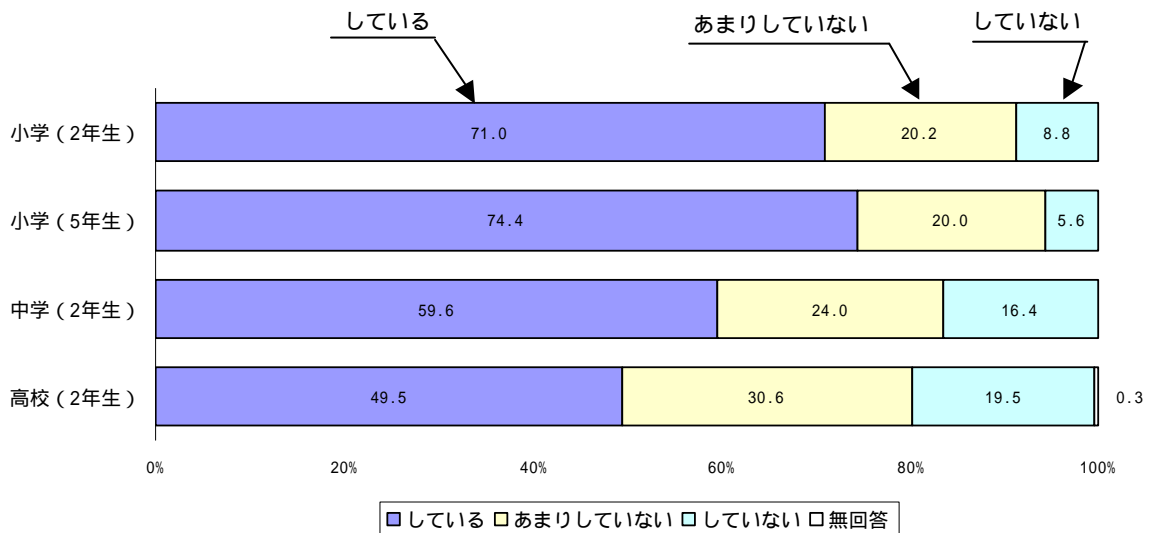
(会話の楽しさ)



4 食事のマナー

食事でのあいさつ

食事の際のあいさつについては、「あまりしていない」と「していない」を合わせた割合は、幼児で20.9%、小学2年生29.0%、小学5年生25.6%、中学2年生40.4%、高校2年生50.1%と、年齢に従い、あいさつをしなくなる傾向が見られ、特に高校生では半数があいさつをしない状況となっています。

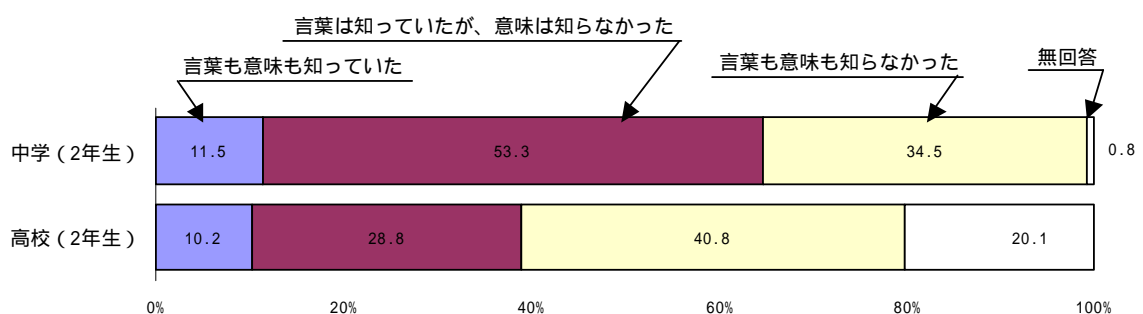


5 食に関する知識

(中学生以上に対しての設問です。)

「食育」の認知

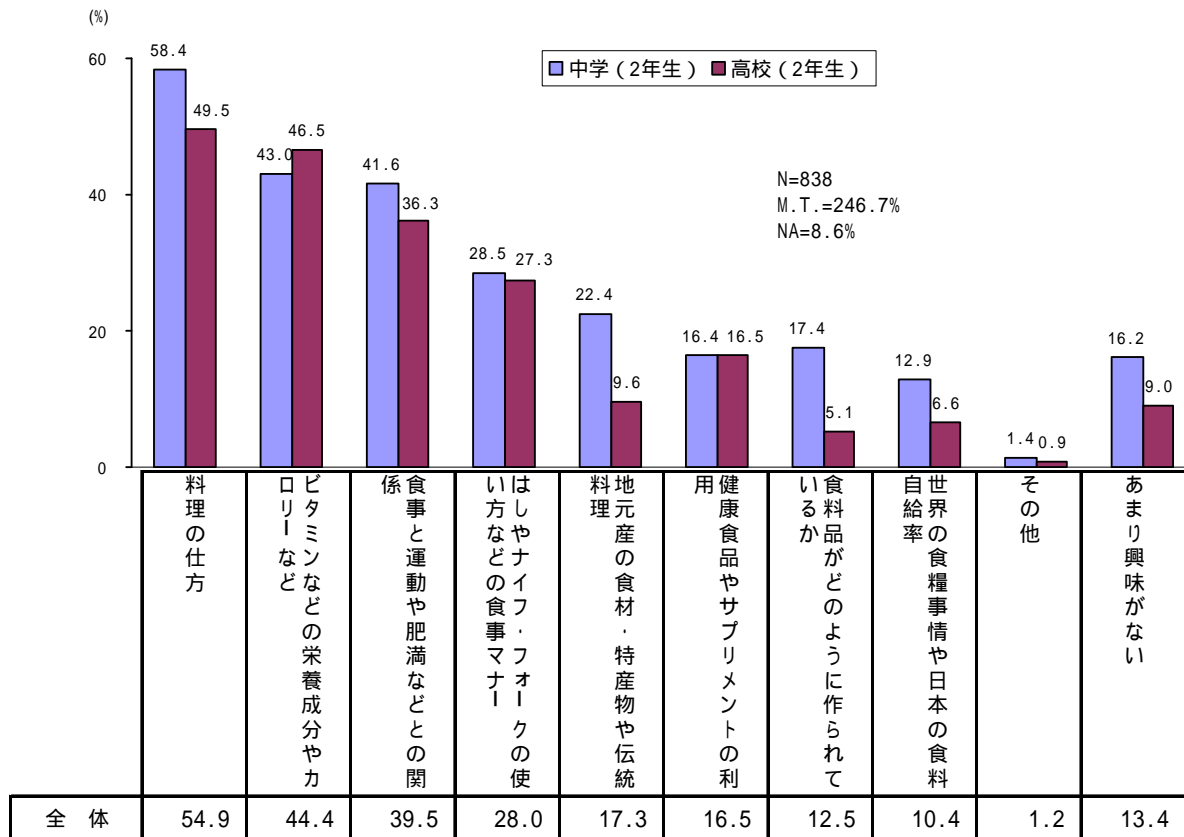
食育を知っているかどうかについては、「言葉も意味も知っていた」が中学2年生で11.5%、高校2年生で10.2%、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が中学2年生で53.3%、高校2年生28.8%となっており、食育の認知の差がある傾向が見られます。



食に関する関心事項

中学2年生、高校2年生いずれも、関心事項の第1位は、料理の仕方(中学58.4%、高校49.5%)、第2位は栄養成分など(中学43.0%、高校46.5%)、第3位は食事と運動、肥満などの関係(中学41.6%、高校36.3%)、第4位は食事マナー(中学28.5%、高校27.3%)となっています。

次いで、第5位には、中学2年生では地元の食材など(22.4%)、高校2年生では健康食品など(16.5%)となっています。中学での地元食材への関心が比較的高いのは、学校給食の実施が影響していると考えられます。



6 学校の昼食（高校生のみ）

高校生の昼食については、家からの弁当がほとんど（89.2%）で、主にパン・おにぎりのみ 3.6%、学校給食のうどんなど単品料理のみ 1.2%と簡便化され、食べない 1.2%を合わせると 6.0%が昼食での栄養摂取に問題がある可能性があります。

